

# 第2章 豊橋市の現状

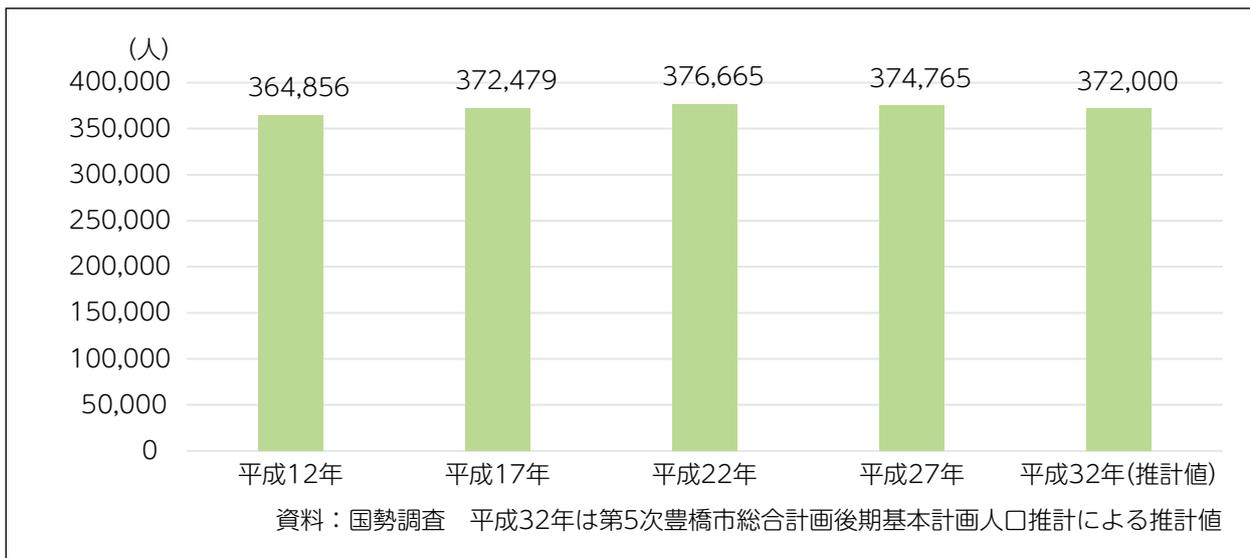


# 第2章 豊橋市の現状

## 1 人口の状況

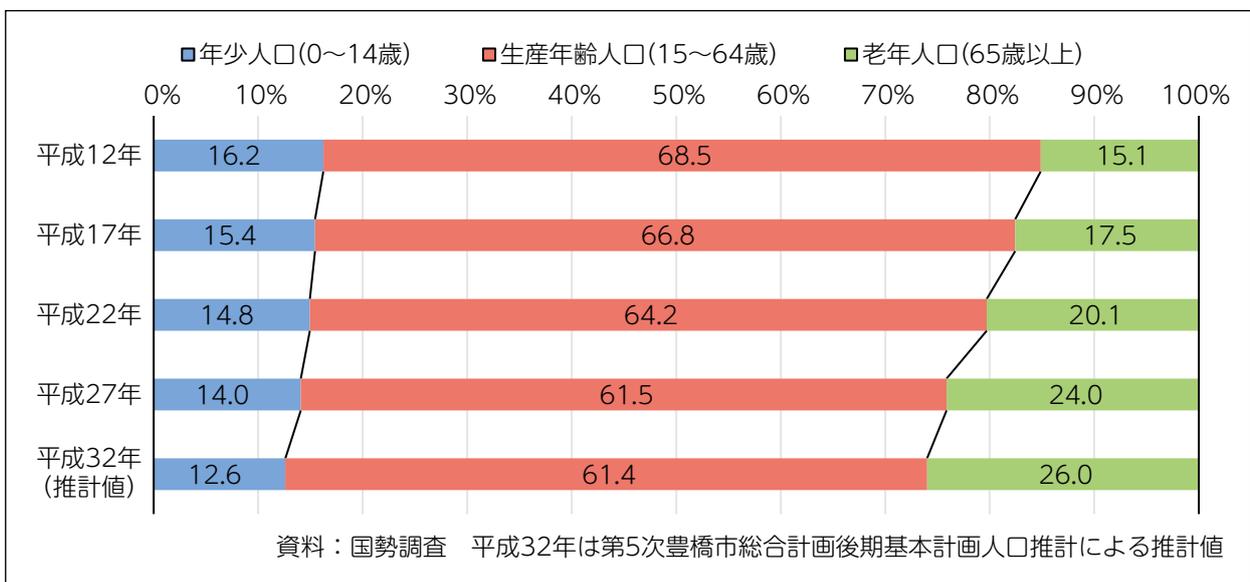
本市の人口は、平成22年までは堅調に増えてきました。しかしながら、出生率の低下などにより平成32年には約372,000人になると推計しています。

図1 人口推移と推計



年齢階級別人口は、年少人口（0～14歳）、生産年齢人口（15～64歳）が減少していく一方、老年人口（65歳以上）の割合は増加し続け、平成32年には老年人口は26.0%と推計しています。

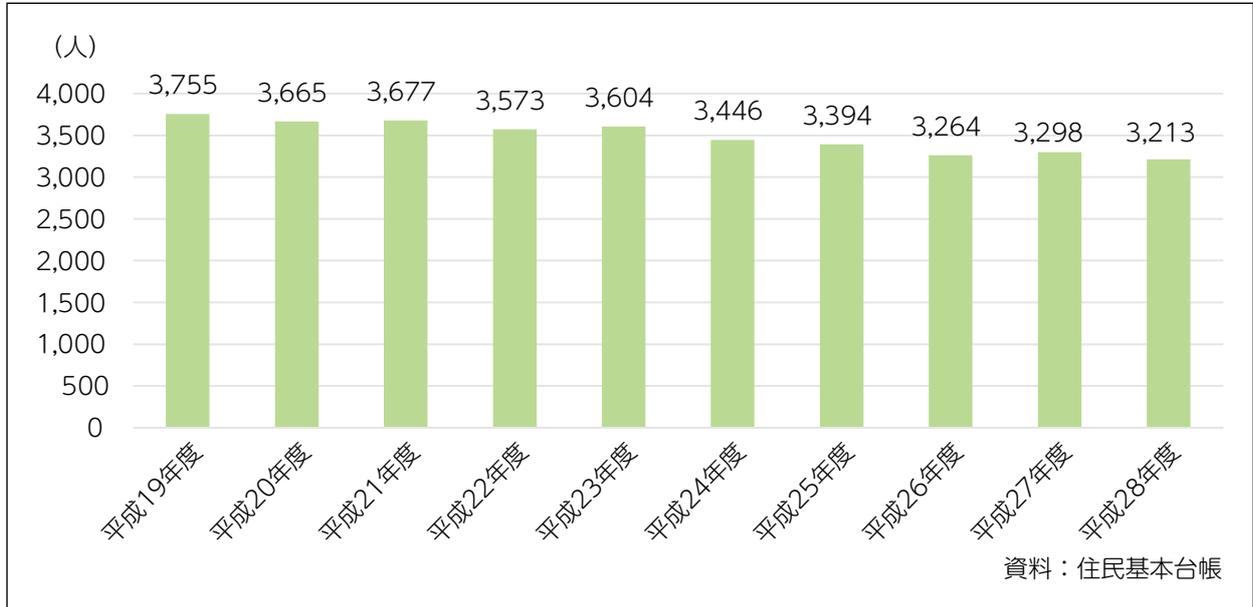
図2 年齢階級別（3区分）人口構成比の推移と推計



## 2 出生

出生数は、平成24年度以降減少傾向にあります。

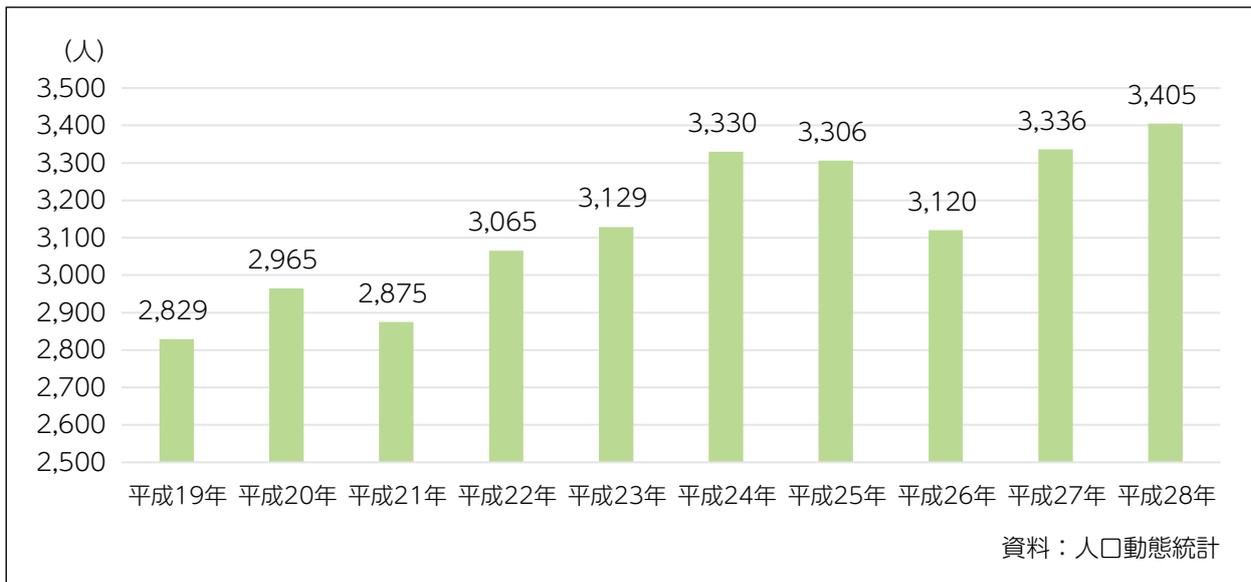
図3 出生数の推移



## 3 死亡

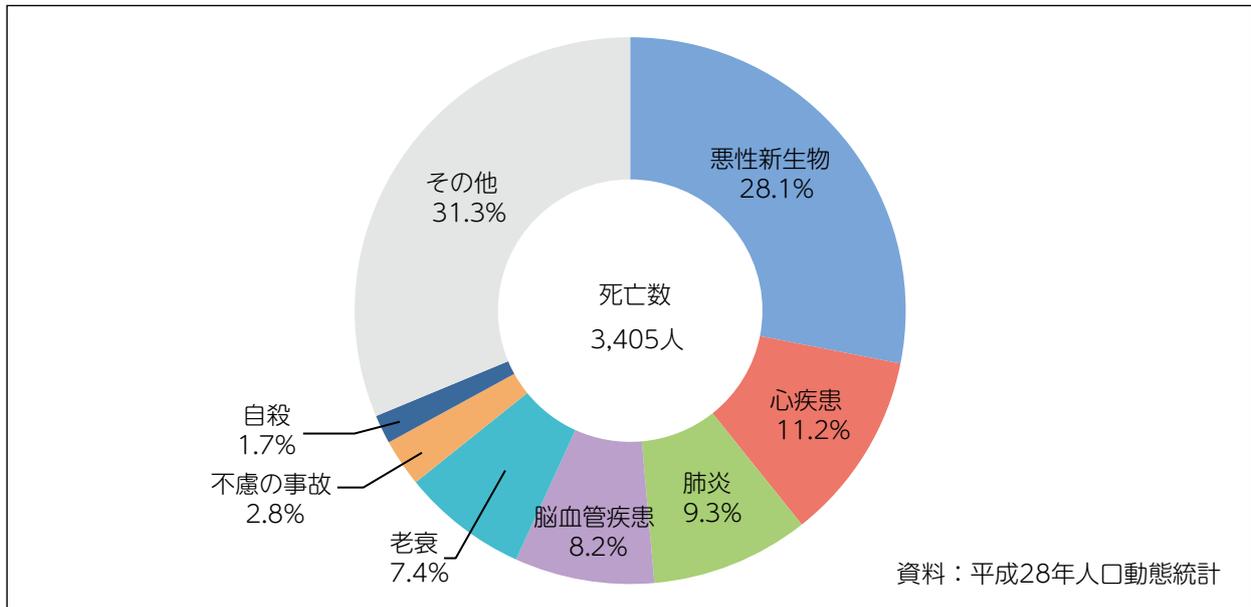
本市の死亡数は平成22年以降3,000人を超えて推移しています。

図4 死亡数の推移



死亡原因は、「悪性新生物（がん）」が最も高く、次いで「心疾患」、「肺炎」の順となっています。

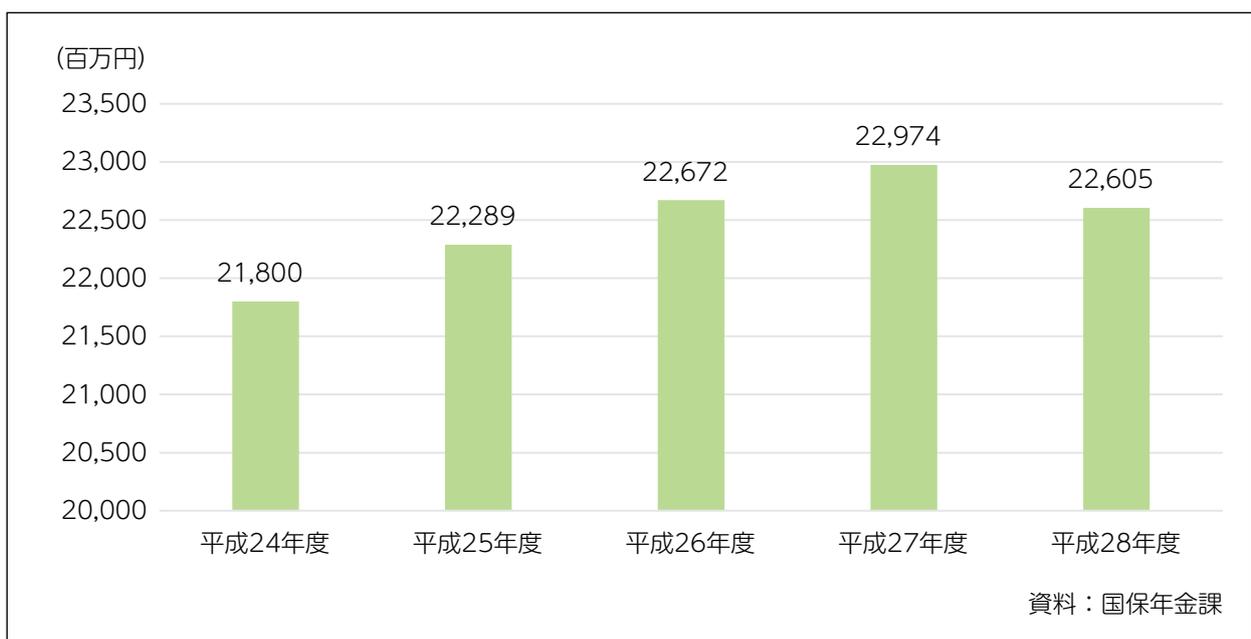
図5 豊橋市死亡内訳



## 4 医療費等の状況

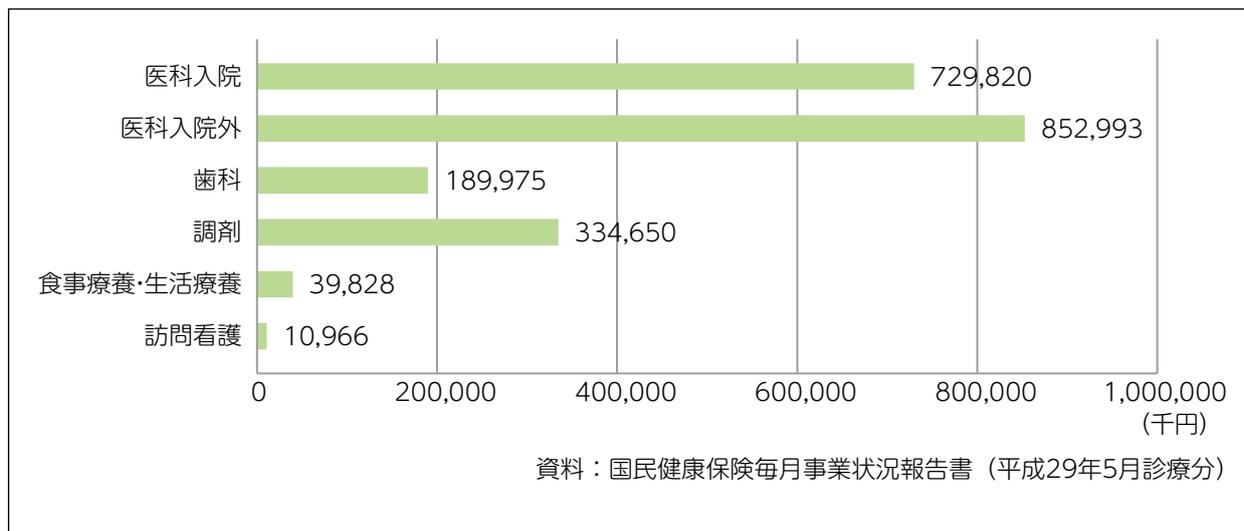
本市の保険給付費(医療費のうち、患者負担分を除いた保険者の支出分等)は年々増加してきましたが、平成28年度は後期高齢者医療制度への移行者の増加等による被保険者数の減少に伴い、減少しています。

図6 国民健康保険 保険給付費の推移



本市の療養の給付の内訳をみると、最も多いのは「医科入院外」です。次いで「医科入院」「調剤」「歯科」となっています。

図7 療養の給付等内訳

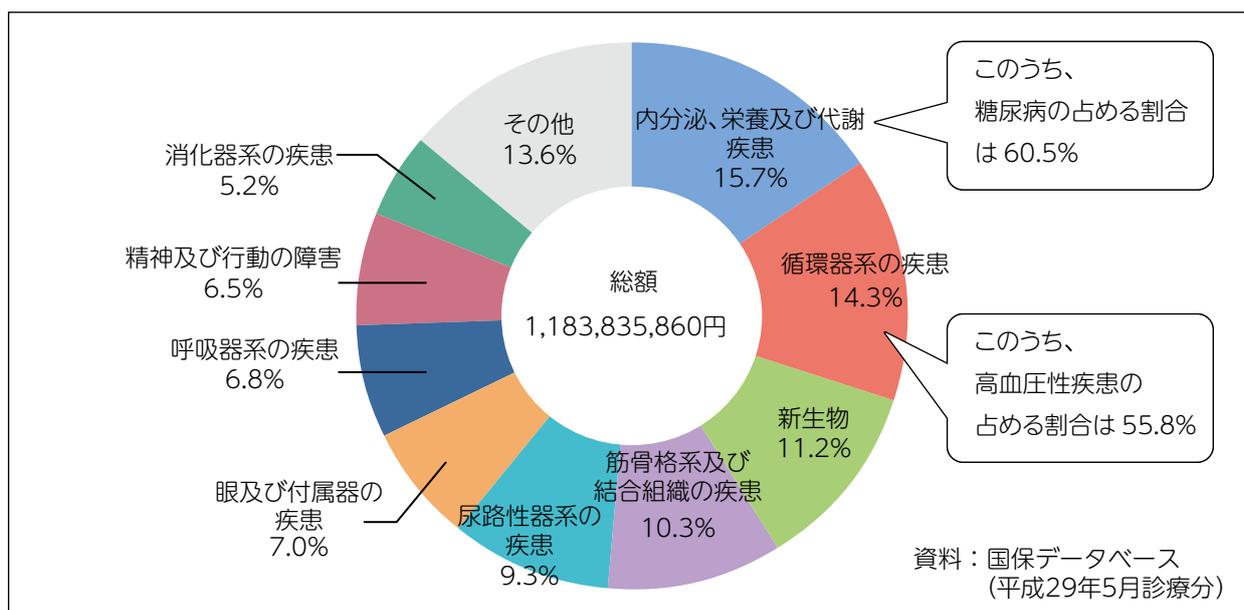


本市の外来医療費の内訳をみると、最も多いのは「内分泌、栄養及び代謝疾患」です。次いで「循環器系の疾患」、「新生物」の順になっています。

「内分泌、栄養及び代謝疾患」のうち糖尿病の占める割合は60.5%、「循環器系の疾患」のうち高血圧性疾患の占める割合は55.8%です。

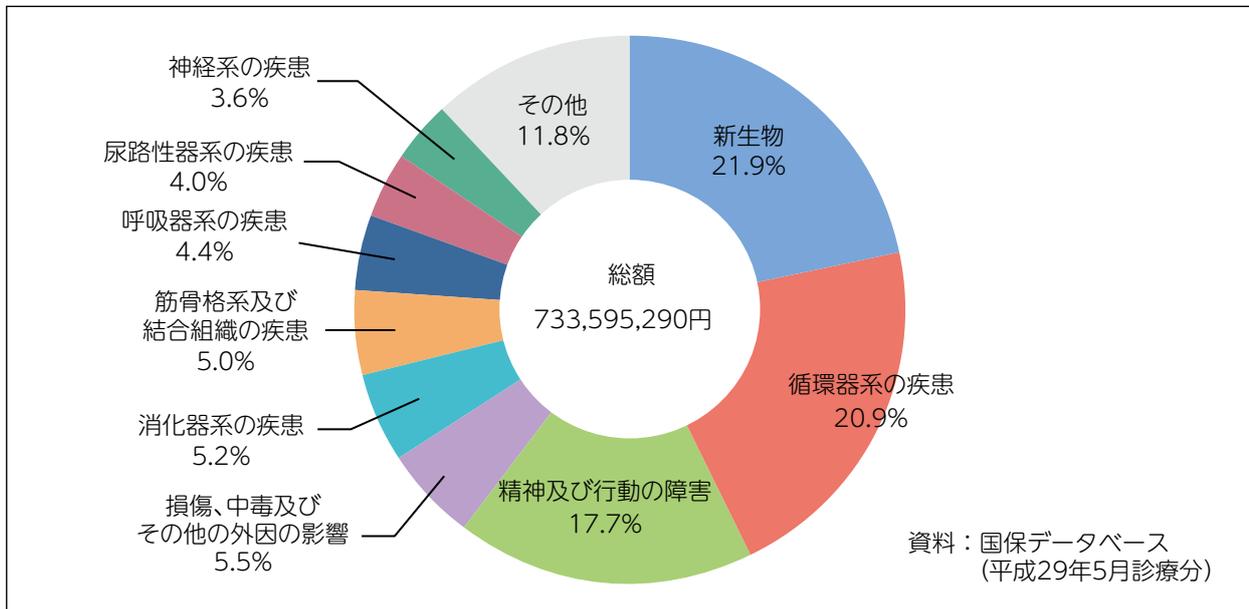
歯周病は、お口の中の病気の1つではありますが、身体の中の様々な状態とも関連しているため、全身疾患への影響があることが分かってきました。とりわけ、糖尿病、心疾患、低出生体重児、誤嚥性肺炎<sup>ごえんせいはいえん</sup>\*は、重篤な歯周病に罹患していると重症化することがあります。

図8-1 大分類別医療費の内訳（外来）



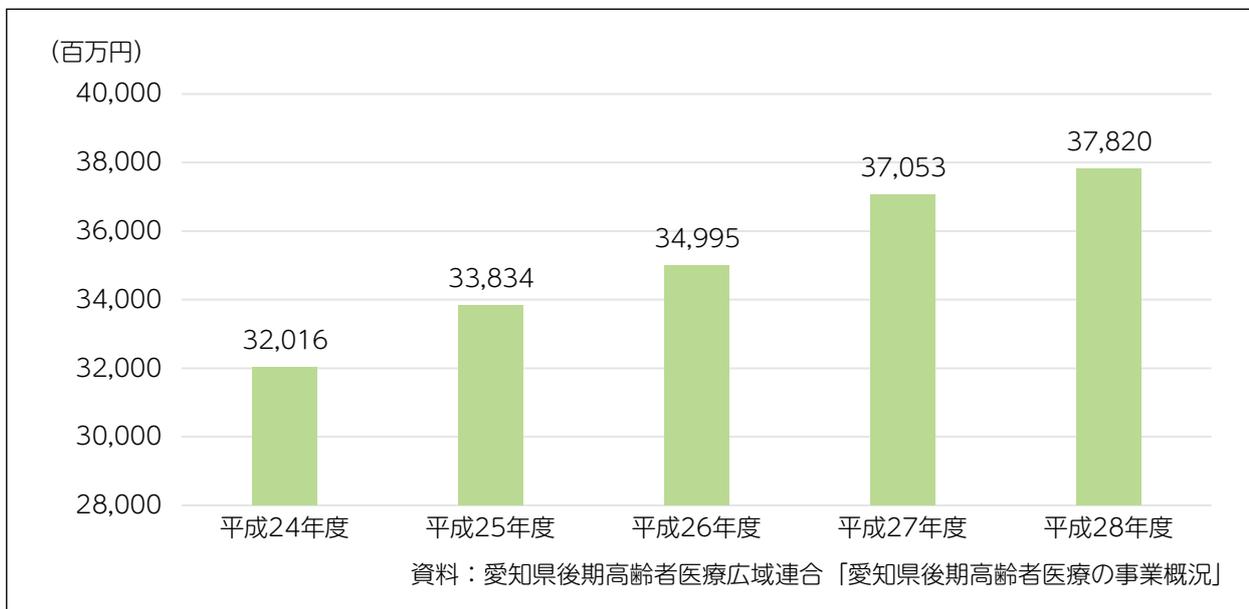
入院医療費の内訳で最も多いのは「新生物」です。次いで「循環器系の疾患」、「精神及び行動の障害」の順となっています。

図8-2 大分類別医療費の内訳（入院）



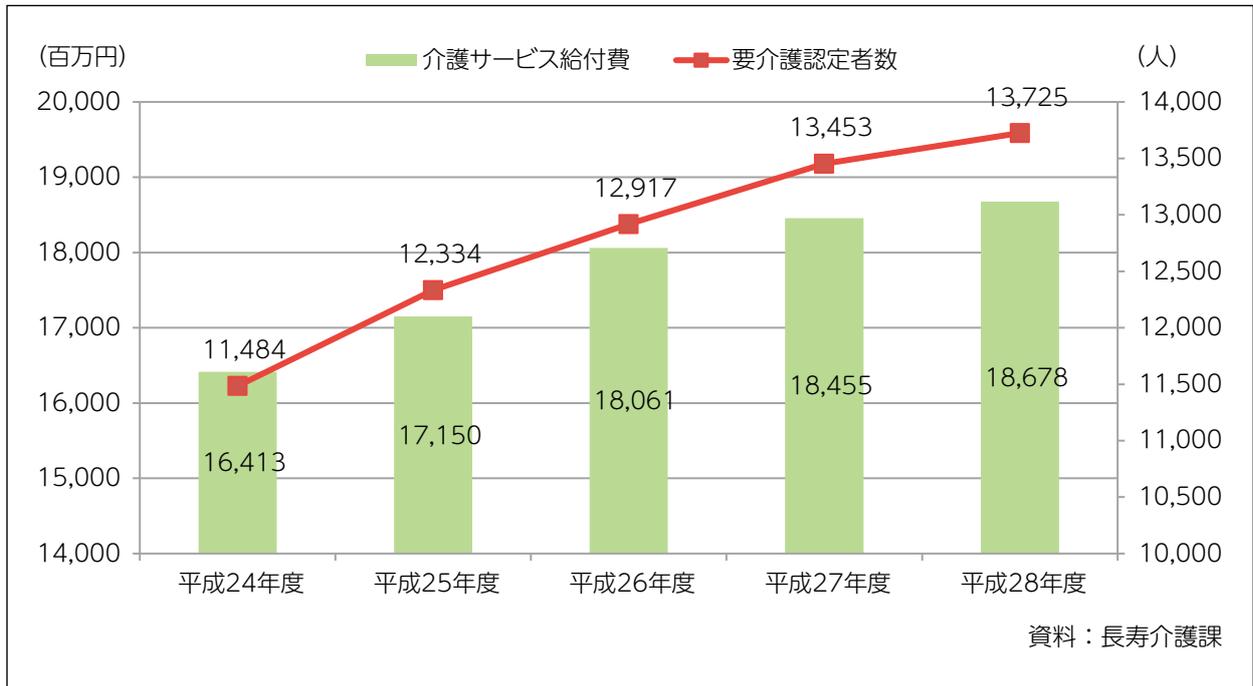
後期高齢者医療費も年々増加傾向にあります。

図9 後期高齢者医療 保険給付費の推移（審査支払手数料、葬祭費を除く）



介護保険サービス給付費は、要介護認定者数の増加に伴い、増加傾向にあります。

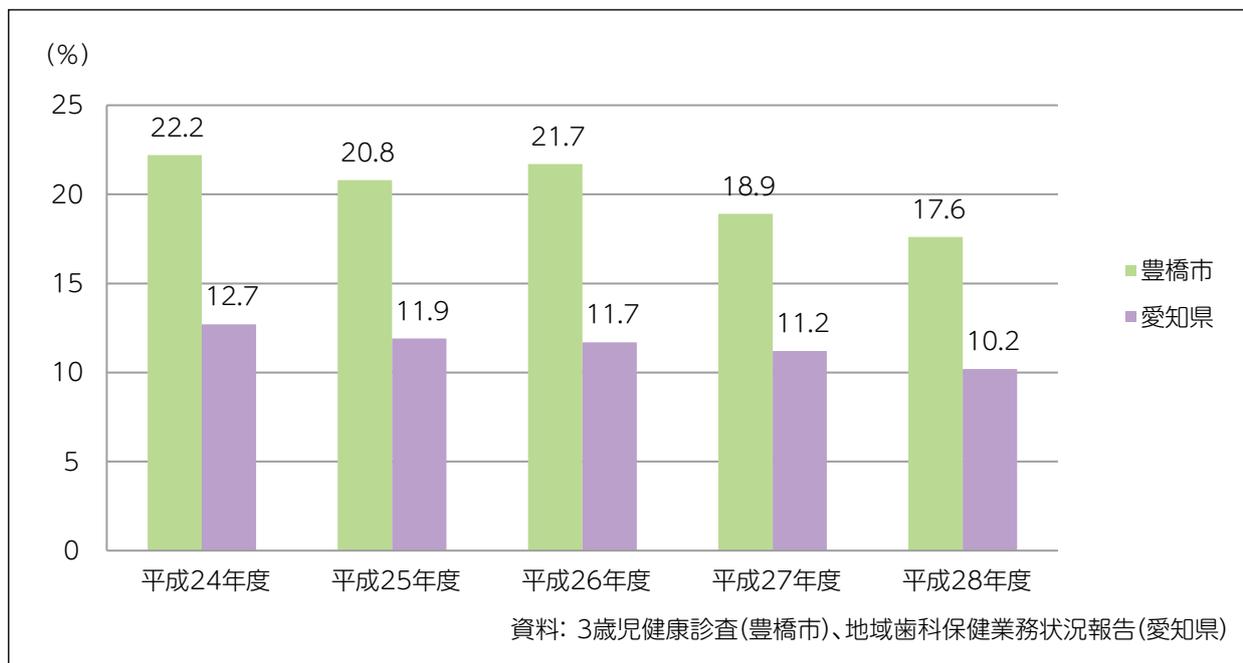
図10 介護保険サービス給付費及び要介護認定者数の推移



## 5 歯科保健の状況

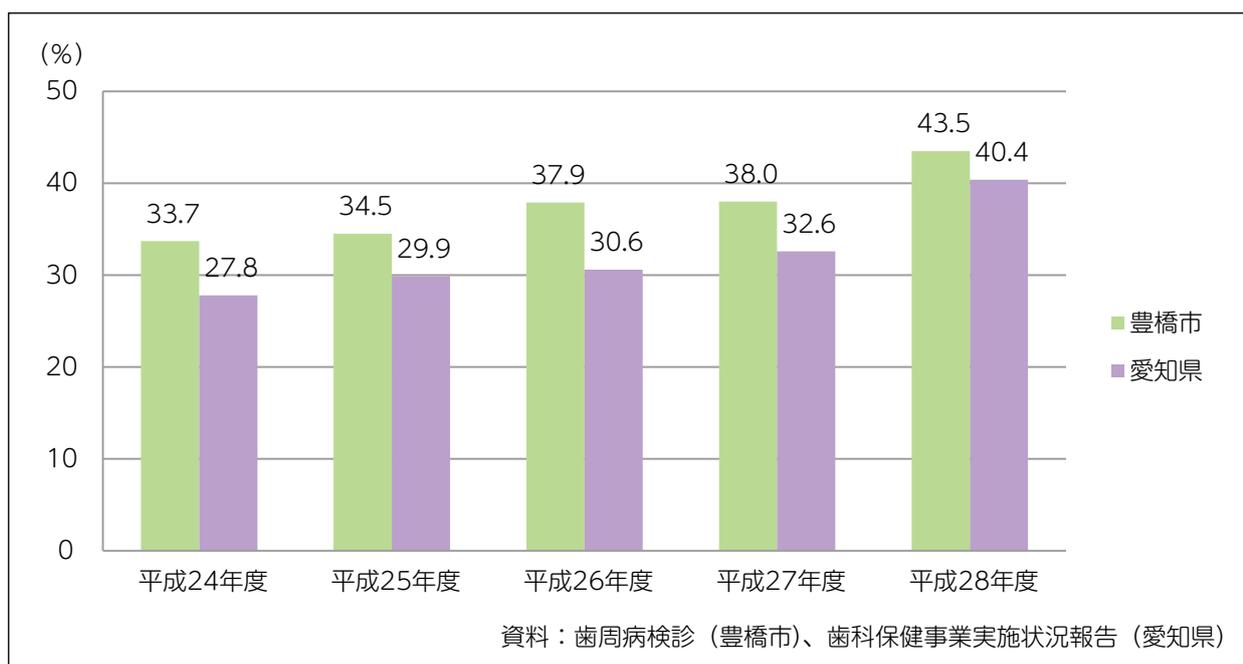
3歳児のむし歯のある者の割合は減少傾向にあります。愛知県と比較すると高い状況です。

図11 3歳児のむし歯のある者の割合



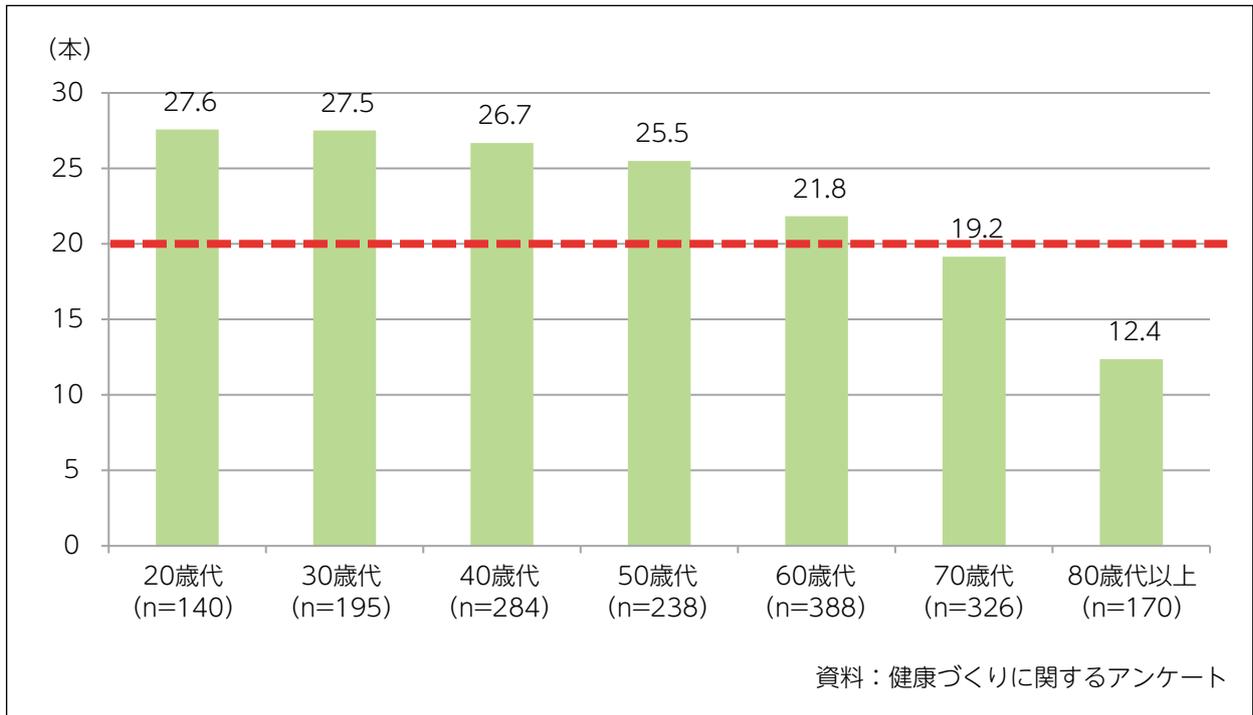
40歳で歯周炎\* (進行した歯周病\*) を有する者の割合は年々増加傾向にあり、愛知県と比較しても高い状況です。

図12 40歳で歯周炎 (進行した歯周病) を有する者の割合



歯の平均本数は年代ごとに徐々に減少し、70歳代で20本を下回ります。

図13 年代別歯の平均本数



年代別歯の残存数別割合も、20本以上ある者の割合は50歳代から減少し、60歳代では8割を下回ります。80歳代以上では、4割を下回ります。

図14 年代別歯の残存数別割合

